

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 7 月 29 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104138		
法人名	医療法人社団博寿会山下医院		
事業所名	グループホーム博寿会ほほえみ		
所在地	〒739-1734 広島市安佐北区口田1丁目14-10 (電話) 082-843-1011		
自己評価作成日	平成28年7月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470104138-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470104138-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年7月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

『利用者さんがどんな景色をみて、どんな暮らしをされ、過ごしておられたか』を大切にしています。地域の子供たちとの関わりや、近隣の商店にも、気軽に出掛けられる普通の暮らしを援助することが大切です。地域との連携をとり、認知症の理解を深める活動を行っています。母体医療法人との連携で、安心して過ごして頂けるホームでありたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成16年8月開設のグループホームである。事業所はJRの駅のすぐ近くに立地しており、交通至便であるにもかかわらず、閑静な住宅街の中にあるほか、周囲には川や畑も多く静かな環境である。事業所を運営する医療法人が隣接し、医療面での支援体制が整っているほか、駐車場も広く家族などの来訪もしやすい構造となっている。事業所の職員全員が、利用者がどのような暮らし方をしてきたかを重視しており、職員の4分の3が介護福祉士の資格を持ち、日頃から地域とのかかわりなどを介護に反映させるなど、本人や家族の意向を踏まえた対応がなされている。職員の教育にも力を入れており、管理者を中心に、専門性を高める取り組みがなされている事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	・『やさしさを大切にふれあいを忘れずに』理念を基に共有を図るように努力しているが、時に意識が低いと感じる面もあり、ケアの最終目標が理念に繋がる様、各自が意識出来る環境作りを行いたい。	事業所の理念「やさしさを大切にふれあいを忘れずに」を浸透させるため、年間を通じた研修計画を作成し、利用者に寄り添う点などを研修や日頃の実践の中で振り返り、管理者も講師となるなど、事業所全体として取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・食品や日用品の買い物は、近隣の店舗へ利用者と一緒に外出をして購入している。日常的ではないが、地域の中学生の職場体験の受け入れでは、体験に来た中学生と一緒にオヤツ作りをするなど、利用者との交流が出来る様なプログラムを継続的に実施している。	近所のスーパーへ食材の買い出しに日常的に出かけているほか、中学校の職場体験の受け入れ、日頃からの近隣住民への挨拶も欠かさず行っている。その結果、近所の人が事業所の畑を気にかけて声をかけてくれるなど、近隣との良好な関係が構築できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・昨年度は地域包括支援センターの職員と民生委員が参加された運営推進会議の場で、グループホームの歴史を紹介した。今までの利用者さんたちの利用開始年齢や利用期間などの統計データを紹介し、暮らしの様子を伝える機会を持った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・運営推進会議は奇数月の第4火曜日14時から実施し、連絡や開催後の議事録報告もしており、事故・苦情ともに意見を求めている。しかし参加する家族は固定されており、参加意欲を高める様な工夫の必要性を感じる。	運営推進会議には地域の役員や行政職員にも必ず声掛けを行い、避難訓練や消防訓練なども一緒に行うなどの工夫を行っている。また、ヒヤリハットや事故報告など、事業所の運営について公開することで、活発な意見交換につながっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・運営推進会議の連絡は、区の介護保険課へ毎回しているが、欠席が続いている。	市に対しては運営推進会議への参加呼びかけを毎回行っているほか、地域包括支援センターを通じて市との情報交換を行っている。また、認知症サポーター養成講座や認知症アドバイザーなどの事業に協力することで、市との協力体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>・ホームの前後に水路、線路があり、玄関よりすぐに駐車場がある為、施錠はしているが、訴えがあれば外に出る様に援助している。また認知症ケア研修・身体拘束廃止に向けた研修を実施した。利用者の落ち着きを見て開放するときには開放している。</p>	<p>年間を通じて行う研修の中で、認知症ケアや身体拘束に関する研修も行き、管理者自ら作成したテキストによって職員教育を行っている。周囲は水路や鉄道があるため、玄関の施錠は行っているものの、他に身体拘束は行われておらず、介護の工夫によって対応がなされている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>・ホーム内研修を行い、「虐待防止」に対する取り組みを学ぶ機会を持った。認知症の対応力を向上させる研修が、不適切ケアを防止出来るとの視点でストレスに対するアンケート調査も行い、結果報告をしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>・ホーム内研修で、平成28年1月に成年後見制度、3月に権利擁護研修を実施した。利用者家族には必要性が感じられるケースでは、制度利用を勧め、家庭裁判所の手続きが終了し司法書士が介入した事例がある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>・契約および解約の際には十分な説明をしている。その後、不安や疑問点などは来所時などに説明を行い納得されている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>・面会時、家族からの意見要望があれば傾聴し、運営に反映させている。2ヶ月に1回の運営推進会議で、ひやりはっとや事故報告などが参加者に報告され、意見を出して頂く様に心掛けている。</p>	<p>事業所便りなどを通じて、事業所からの情報発信をまず積極的に行い、運営推進会議などの場において、家族から様々な意見を聴取している。また、家族面会時においても直接聞き取りを行うなど、密にコミュニケーションをとるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>・シフト勤務による職員同士の連携の取りにくさなどの改善に、ミーティングの実施を提案され、今年から実施している。</p>	<p>事業所内ミーティングや個別の声掛けにより、職員からの意見聴取を随時行っている。その結果、行事やイベントなどに関する具体的な提案も挙がるなど、事業所の運営に反映がなされている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>・介護福祉士資格を持った職員が6/8人になり、全体の知識水準は向上している。一時的な職員不足の時期もあり、ストレスをコントロール出来る様に研修を行った。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>・ホーム内研修として、毎月テーマを決めて研修を全員が受講している。研修の案内は職員への回覧で行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>・地域包括支援センター主催の口田地区地域密着サービス連携会議に参加し、近隣のグループホームの管理者と顔合わせや意見交換をしている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>・利用決定後の自宅訪問には、担当職員を同行して訪問したり利用開始日を担当者が勤務する日に選択することで、本人の緊張を和らげる様にしており、利用事前情報を熟読し必要事項を把握する。本人の思いが引き出せるように会話に配慮し引き出した情報の共有をし実践に移すようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>・利用開始時の提出書類に『どんな生活がしたいか？して欲しいか？』『不安なこと？』など記入して頂くようにしている。また担当者を決めて支援や傾聴に努めており、家族の不安や要望などがあれば出来るだけ素早い対応をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>・利用前の情報から何が必要か話し合いを持ち検討実践し、その後、早めに再検討が必要かケアマネージャーに報告している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>・利用者の中には、食事の盛付けを毎日されている方や洗濯物の整理など、自分で出来る事を行って頂いており、時々職員から出来そうな事があれば、声をかけやってみることもある。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>・家族の役割は職員では代われないかけがえのないものであると考えている。ご家族には「一緒に何か食べに行こうか」などの、思いがあることは実行して下さるようにお伝えしているし、手伝えることは手伝っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>・知り合いの方が来所された時には、ゆっくりと会話出来る様にして頂き、談話室にて交流の場となるように心がけている。</p>	<p>利用前に居室の状態を確認し、自宅のベッドの配置を見るなど、生活様式を本人になじんでもらえるよう配慮している。また、行きつけの美容室へ行く、自宅への一時帰宅など、本人のこれまで大切にしてきた関係を維持する取り組みがなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>・本人の話、利用者同士の関係を把握した上で様々な事柄を提供する様に努めている。特に共有の話題を提供し、利用者の方々が自ら会話に参加出来る様に支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>・利用者のご逝去から約半年後に看取りをしたことの振り返りを目的に、デスクカンファレンスを実施したが、その時には介護者であった家族を交えた形で行った。</p>		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>・会話、本人の様子、言葉に対して敏感になることと、本人の意向がなるべく尊重出来る様に検討している。</p>	<p>一時帰宅をすることで、本人の納得と落ち着きを取り戻したり、食事の好みへの配慮、入浴に関する要望も勤務を工夫して入浴できるように配慮するなど、個別の意向や好みに応じて検討がなされ、実施されている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>・利用決定と同時に住んでいた家、部屋を訪問し、どんな景色の中でどう過ごしておられたかを確認している。写真を撮り、他の提出書類やアセスメントなどと一緒に職員に事前回覧し、把握をしている。ご家族、本人の話を、聴くことで情報収集を行い、職員同士での情報共有に繋げている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>・職員間での情報交換、報告、記録の確認を日々行うように意識している。一人一人の方々に常に会話の声掛けをし、職員間の情報を得て、心身の状態の把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>・計画作成者は十分なアセスメントと課題分析を実施した上で、職員担当者と話し合いを行い、介護計画を作成するようにしている、定期カンファレンスを開催し、現時点での問題点や課題を上げ検討し、取り組む様になっている。</p>	<p>介護計画の短期目標を日々の介護記録につけ、介護を行いながら毎日確認できることで、介護計画の浸透が図られているほか、目標を確認しながら日々の介護にあたっていることで、現状に即した介護計画作成に結びつけている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>・日々の介護記録ノートの連絡による職員同士の情報共有により、質の高い介護計画となるように努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>・利用者に変化が生じれば、その都度ケアマネジャーに報告し、再検討の試みを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>・地域の商店に職員同伴にての買い物をしている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>・病院との併設により、すぐ対応出来る又かかりつけの病院がある方は、ご家族の協力のもと通院されている</p>	<p>母体医療法人に隣接しており、定期的な受診やリハビリ、検査など、適切な医療を受けられる体制が整っているほか、歯科受診も行っている。専門医受診は家族対応で行い、通院が困難な利用者は訪問診療などの対応も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>・利用者は利用開始時に法人の診療所を受診し、健康チェックをしている。日々の業務報告も実施しており、日常的に看護職員と連携を取っている。受診の際には医療面を記録したノートを活用している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・急変時に備え、診療所の病棟にも利用者の情報については、ご家族了解のもと共有している。脳梗塞を発症し他院へ入院した方のケースでは、お見舞い訪問や地域連携室との調整を行った。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>・利用開始時には重篤化指針を説明し同意を受けている。生活が主体のグループホームではあるが、状態の変化があった場合、主治医との連携のもと本人やご家族の希望に沿ったケアが出来る様に援助を行っている。実際に看取りになった事例もあり、家族との話し合いを重ね、カンファレンスを行いながら実施した。</p>	<p>利用開始時に指針を説明して同意を得ているほか、実際に重度化した場合は病院とも連携し、家族に十分な説明がなされている。また、本人の状態に合わせて家族とも情報共有を密にし、実際に看取りを含めた体制構築がなされている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>・緊急事故の発生時対応として、緊急マニュアルを説明し対応出来る様になっている。又急変時対応の研修も実施した。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>・水害地域であり、河川のライブカメラなどのインターネット情報を受ける体制をとっている。安全研修にて、どの様な災害対策をとっているのか説明を受けた。防災訓練については実践に即した訓練を回数多く実施したい。</p>	<p>事業所周辺は水害地域に属しているため、河川の水門などの様子をライブカメラで確認しているほか、ウォーターゲートを設置するなどの対策も取られている。また、消火訓練も消防署指導のもとに行い、実際の火災を想定した避難誘導訓練も行っている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・ご本人のその日その時の様子を、その日の出勤者で共有出来るように、リアルタイムで伝える様に心がけている。	入浴やトイレ介助時は施錠を行っているほか、居室に入る際はロックなど、プライバシーに配慮している。また、認知症のその日の症状など、本人の状況に合わせて職員間で情報共有を行い、本人の思いをくみ取った対応を行うことで、本人の誇りを損なわない対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・日々の関わりの中で利用者の思いを把握し、情報収集する様にし、その様な場面に遭遇した場合には思いを聞き出すように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・職員間の連携であったり、ケアの統一が十分でないこともあり、単純な日々にならないように思われる。(1人1人のペースは尊重している)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・入浴時、外出時等、本人の意向を聞き、好きな物を着用して貰っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・月に2回『食事作りの日』を設けている。その他、利用者の要望に応じて調理を行っている。	月2回食事作りの日を取り入れ、季節のものを取り入れたり、お誕生日メニューなどを実施している。また、利用者に盛り付けを行ってもらう介護プランにしたり、畑で採れた野菜を食事に提供するなど、利用者が職員とともに楽しみながら食事ができるような取り組みがなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>・毎食の摂取量の検討をした上で、健康状態が保てる様に対応している、その方にあった食事形態、補助食品の工夫は行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>・毎食後に口腔ケアを行っている。義歯洗浄もしている。法人内に歯科クリニックがあり、歯科医師からの指示、アドバイスを実践し、口腔内の状態を確認し、定期クリーニング通院もしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>・状況、状態に応じて都度対応を変更し、不快な思いをしない様に実践している。脳梗塞後遺症の利用者の退院後2日目からトイレにて介助を行い、排泄を行っている事例もある。</p>	<p>排泄チェック表などを活用し、利用者の排泄パターンをつかむことで、オムツからポータブルトイレ、普通のトイレへと、排泄の自立に向けた取り組みがなされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>・排便の様子は申し送り等で勤務する職員が把握しており、場合によっては薬で排泄コントロールをしているが、ヨーグルトなどの食品を補助的に摂取する方もいる。又昨年の8月からは朝食後にラジオ体操を実施しており、毎日8人の利用者の参加がある。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>・入浴スケジュールはあるが、その日の体調や希望によって、中止、翌日入浴等替わることもある。</p>	<p>利用者は週3回入浴することができるが、毎日入浴を望む利用者や、入ったことを忘れた利用者がある場合でも、勤務体制を検討して時間を作り、入浴ができるようにするなど、本人本位に入浴の支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>・臥床されたいであろう様子 であれば声かけて居室へ誘導し ている。各利用者の暑がり寒が りを把握し布団室温調整を行い 、気持ち良い睡眠を支援して いる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。</p>	<p>・利用者別にお薬リスト用紙を ファイルし、処方日には確認し ている。またホワイトボードに も用量を表記し服薬前にチェッ クし薬箱に入れている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。</p>	<p>・日常の家事手伝いを希望され る方や、職員からお願いする 方に手伝って頂いている。気分 転換にデイケアへ参加すること もある。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。</p>	<p>・日常的な外出に関しては実践 出来ない部分があるが、外出外 食は定期的に計画し、利用者 全員に参加して貰っている。お 花見、外食など全員参加の計 画と初盆前の墓参り、美術館 へ行くなどの個別計画を立て ている。</p>	<p>事業所に隣接する畑や近所の スーパーにも積極的に出かけて いるほか、飲食店やショッピング センターへの外食、墓掃除や美 術館など、日常的に外出がで きるような支援がなされている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>・買い物際には同行者が利用者 の財布を預かり、買いたい物の 購入へ繋がる様にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>・要望があれば、すぐに使用出来る様に対応している。ハガキ、手紙の場合には必要物を準備したり促しを行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>・玄関に利用者の習字絵、リビングには写真、壁画などを飾り工夫している。洗面台、フロア、テーブルに花、観葉植物等を飾り、1年の行事季節にあったものを飾っている。</p>	<p>利用者が外出した際の楽しそうな表情をした写真を掲示し、利用者や家族との自然な会話づくりに結びついているほか、採光や飾りつけなど、居心地の良い環境づくりに工夫がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>・リビングにはソファを設置し、思い思いの場所で過ごせるように支援している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>・居室にご本人の思い出の品、大事な写真等を飾り、リラックス出来る空間になる様に工夫している。</p>	<p>居室の前には果物や野菜の絵が描かれたプレートがあり、また、居室内には利用者の好きな写真やなじみの家具を持ち込むなど、利用者が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>・トイレには便所などの目印をしたりして、わかりやすくして、手すりや足元の電気などで、夜間もトイレにいけるように配慮している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム博寿会ほほえみ

作成日 平成28年9月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議自体がマンネリ化している。	毎回何かしらのテーマで話し合うことができる。	最近の介護に関するニュースや介護予防、認知症予防の話をテーマに挙げていく。	2か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。